

第 80 回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 議事録

I. 日 時：2017 年 5 月 18 日（木）13 時 30 分～15 時 40 分

II. 場 所：日本機械学会 第 3,4,5 会議室

III. 出席者：（委員 19 名中、出席者 16 名（うち代理 3 名）、欠席者 3 名）

三原（東北大）、飯田（東電 FP）、藤田（MHPS）、木村（NIMS）、三好（川崎重工）、
天野（早大）、佐藤（発電技検）、岡（富士電機）、松田（HSB ジャパン）、
堀（経産省）、東垂水（中部電力）、長塚（電源開発）、由上（関電）、

代理者：園山（火原協）、長尾（電中研 福富）、太原（東芝 木村）

欠席者：長谷川（日鉄住金テクノロジー）、中谷（大口自家懇）、海老沢（日本電気協会）

オブザーバ：関根（IHI）、樺田（MHPS）、伊藤（IHI）

事務局： 原

IV. 配付資料

80-1 第 79 回火力専門委員会議事録（案）

80-2 専門委員会・分科会委員案

80-3 第 81 回規格委員会議事録（案）

80-4-1 材料分科会報告

80-4-2 構造分科会報告

80-4-3 溶接分科会報告

80-4-4 配管減肉分科会報告

80-5 各分科会審議履歴表

80-6 メール審議 No.3「火技解釈第 167 条解説文案について（ご意見伺い）」結果報告

80-7 火力設備配管減肉管理技術規格(2016 年版)の定期事業者検査の方法の解釈への取り
入れ

80-8 高クロム鋼の強度見直しに係る追補・事例規格の規格案

V. 議事

1. 前回議事録確認 [80-1]

前回議事録（案）の確認を行ない、議事録案は承認された。

2. 専門委員会、分科会の委員・役員承認 [80-2]

(1) 火力専門委員会委員の推薦承認

大橋委員と野井委員の退任が報告された。新任候補として関根氏（IHI）、再任委員候補として松田委員、長塚委員の推薦が報告され、出席委員全員の賛成により規格委員会へ推薦することが承認された。資料 80-2-1 において、新任の関根委員の業種が「電力」となっているので、「電気機械器具製造業」に修正する。

・火力専門委員会：（新任） 関根氏（IHI）
（退任） 大橋委員、野井委員
（再任） 松田委員、長塚委員

(2) 分科会委員の承認

各分科会の以下の退任、新任・再任候補が報告され、出席委員全員の賛成により承認された。

・材料分科会：	(新任)	なし
	(退任)	なし
	(再任)	なし
・構造分科会：	(新任)	関根氏（IHI）
	(退任)	大橋委員
	(再任)	田村委員、黒川委員
・溶接分科会：	(新任)	なし
	(退任)	なし
	(再任)	青山委員（主査）、幅野委員、原田委員、長谷川委員
・配管減肉分科会	(新任)	なし
	(退任)	なし
	(再任)	なし

3. 報告事項

(1) 発電用設備規格委員会報告

[80-3]

第81回規格委員会の議事内容のうち、火力に関連する内容が報告された。主な事項は以下のとおり。

- 火力専門委員会の委員の承認
- 火力専門委員会報告
- 発電用火力設備規格に関する審議はなし。

(2) 分科会報告

1) 材料分科会報告

[80-4-1]

伊藤材料分科会主査から第85回分科会（H29.4.26）の議事内容が報告された。主な内容は以下のとおり。

- 第34回材料専門委員会(2/21)報告
- 火STPA28系鋼の許容値等の見直しに係る、追補（許容引張応力）と事例規格（寿命評価式）の提案資料について審議状況、提案資料の承認。
- 発電用火力設備規格201X年版に関し、変更点集約表、許容応力表、規格原稿案について審議状況。

2) 構造分科会報告

[80-4-2]

飯田構造分科会主査から第95回分科会（H29.4.25）の議事内容が報告された。主な内容は以下のとおり。

- 発電用火力設備規格 201X 年版レビュー票の審議状況。
- 火 STPA28 系鋼の許容値等の見直しに係る追補案（溶接継手強度低減係数）に関する審議状況。追補に係る提案資料の承認。
- 新旧対比表の標準例、変更箇所一覧表の書式案についての審議。

3) 溶接分科会報告 [80-4-3]

樺田溶接分科会副主査から第 74 回分科会（H29.4.21）の議事内容が報告された。
主な内容は以下のとおり。

- 発電用火力設備規格 201X 年版レビュー票の審議状況
- 201X 年版レビュー票のダブルチェック（メールベースで確認）、提案資料の準備の進め方の確認。
- 新旧対比表の標準例、変更箇所一覧表の書式案についての審議。

4) 配管減肉分科会報告 [80-4-4]

分科会は開催されていないことから、以下の内容を事務局が代行して報告した。

- 分科会三役が、今後の減肉データの収集、時期、改訂に対する考え方等について素案を検討中。6月5日に分科会三役による幹事会を開催。
- 今後の進め方に関する素案がまとまった後に、分科会の各委員とその内容について意見交換する予定。

(3) メール審議 No.3「火技解釈第 167 条解説文案について（ご意見伺い）」結果報告 [80-6]

事務局が、メール審議 No.3「火技解釈第 167 条解説文案について（ご意見伺い）」の結果報告として、いただいたご意見の一覧表とご意見を参考に修正した解説文案の紹介を行った。飯田副委員長から、6月頃に予定されている火原協の委員会にて、ほぼ解説文案がまとまることが報告された。

(4) 火力設備配管減肉管理技術規格(2016 年版)の定期事業者検査の方法の解釈への取り入れ [80-7]

火力設備配管減肉管理技術規格(2016 年版)が3月31日付けで定期事業者検査の方法の解釈に取り入れられたことが報告された。

4. 審議事項

(1) 高クロム鋼の強度見直しに係る追補・事例規格の規格案の提案 [80-8]

高クロム鋼の強度見直しに係る追補・事例規格の改訂内容について、伊藤材料分科会主査から、許容引張応力と寿命評価式に係る部分、飯田構造分科会主査から改訂の全体概要と溶接継手強度低減係数に係る部分について説明があった。改訂内容の説明に続き、発電用火力設備の基本規定と詳細規定(201X 年版)と事例規格の規格案について、火力専門委員会で書面投票を実施することが提案された。審議の結果、火力専門委員会の書面投票を実施することが承認された。

質疑等は以下のとおり。

○基本規定の対比表（資料 3P）において、改訂前のものは鋼種名の頭に J を付けることになっているが、2017 年追補ではこれがなくなっているが、どういうことか。

→ 改訂前は現行の法令に従って寿命評価を行うことになっており、現行の法令では火技解釈材を対象にしているので、火技解釈参照材（J 火材）の寿命評価を行う場合には、鋼種名の頭に J を付けて読み替える必要がある。改訂案では、火技解釈参照材（J 火材）を対象にしている事例規格に従うことになるので、読み替えは不要となる。

○材料関係の許容応力表の新旧対比表において、変更箇所の網掛け、アンダーラインの使い方に不統一があるようなので、より分かりやすい方法があるかどうか、ご確認をお願いしたい。

→ より分かりやすい方法があるか考えます。

○6 月 6 日に規格委員会が予定されているが、本規格案の制定手続きがスムーズに進むよう、火力専門委員会の書面投票可決を条件に、6 月 6 日の規格委員会に本件を提案した方がよい。

→ そのようにします。

VI. 次回開催予定

日 時：2017 年 8 月 28 日（月） 13:30～17:00

場 所：日本機械学会 第 1 会議室